



# 森林ふれあい情報

平成26年3月  
第30号

中部森林管理局木曽森林ふれあい推進センター  
〒397-0001 長野県木曽郡木曽町福島1250-7  
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151  
E-mail:kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

## 木曽青峰高校生より木製ベンチ寄贈

平成26年1月22日、木曽町の木曽青峰高校森林環境科3年生が、木曽町の城山国有林（城山史跡の森）をフィールドとして森林整備等の活動を行っている城山史跡の森倶楽部へ木製ベンチ5脚を寄贈する贈呈式を行いました。

このベンチ製作は、昨年度に引き続いての取組で、城山国有林に隣接する同校演習林のヒノキ等の間伐材を利用したものです。昨年9月から林産加工の実習で、屋外に設置することから頑丈に作るなど工夫を凝らして製作に当たってきました。

式典では、生徒代表から「安心して座れるように作ったので、大切に使用してください。」とあいさつがあり、贈呈を受けた同倶楽部の柿崎副会長は、「昨年贈呈されたベンチも地域住民や観光客が休憩に利用し好評なので、皆さんの取組に感謝します。」とお礼の言葉があり、ベンチとともに集合写真を撮り、贈呈式を終えました。

雪解け後の4月に、城山史跡の森にベンチを設置し、訪れる方々に利用してもらおう予定としています。



木曽青峰高校生からベンチを贈呈



個性あふれるベンチ

## 木曽の森林散策マップ作成

当センターでは、局の新基軸の取組に沿って、本年度の事業の重点取組事項の一つとして、木曽地域に点在している森林散策路について、効率的な周遊の参考となるマップを作成・提供し、その利用の促進を通じて森林のPR、地域の観光資源を情報発信することにより地域振興に寄与することを目的に、散策路マップの作成に取り組んできました。

春先から、管内の保護林、自然休養林等内の散策路および地域の名勝地にある散策路について、現地踏査や写真撮影に職員一丸となって望み、2月末に16ページのマップが完成しました。

3月には、地元地方事務所、市町村や観光協会等に配布し、中部森林管理局のホームページにもダウンロードできるように掲載しました。

この散策マップは、地域の里山や比較的身近な国有林のお薦めウォーキングルートや見所を紹介し、広く一般の方々が比較的軽装で気軽に訪れられ、自然観察や古道・史跡めぐり、滝めぐりなどランブリングしていただける10箇所（箇所）の散策路や木曽の自然、木曽五木の説明等を掲載してあります。

掲載の10の散策箇所は、

- I 里山の国有林に存置するレクリエーションの森
- II 温泉や観光地の近場にある国有林内の散策路
- III 近場の国有林に存する景勝地、ビューポイント
- IV 国有林内に存する史跡・古道（街道、石碑、道標）をコンセプトにして、木曽地域6市町村（木祖村、木曽町、上松町、王滝村、大桑村、南木曽町）並びに近接する2市（塩尻市、中津川市）に渡っています。

また、マップは、関係機関等から好評を得ており、一人でも多くの方が木曽地域に足を運んでくれることを期待しています。



完成したマップの一部

## 長野県西部地震災害復旧地における 自然再生事業

昭和59年に発生した長野県西部地震により御嶽山南斜面では「御嶽崩れ」と呼ばれる大規模な山腹崩壊が発生しその大量の土石は、王滝川支流の伝上川を猛スピードでかけ下り、一部が小高い尾根を乗り越え、隣の濁川、鈴ヶ沢をも流下して約600haの森林を消失し、崩壊土石等に覆われた広大で荒涼とした地形に一変させました。

被災跡地ではこれまで治山えん堤、緑化工事等の治山事業や、ボランティアによる自然再生活動等が積極的に実施されてきました。植栽された苗木は9万本にもなり、下刈り、施肥、除伐、枝打ちなどの保育作業が行われてきた結果、現在では、植栽した樹木や自然発生の植生によって、森林が再生しつつあります。

森林は現在発達初期の段階にあり、将来はヒノキ、サワラ、ミズナラなど由来樹種の優占する森林へ誘導、再生を図っていく必要があります。



現在の長野県西部地震災害復旧地

当センターでは治山事業等の中で肥料木として植栽され、上層木となっているヤマハンノキの間伐試験を行い、4箇所のプロットを設置して下層木であるヒノキ等の生長量について、毎年調査を行っています。

また、肥料木としての効果の持続を期待し、ヤマハンノキを1m程度の高さで中段伐りし、木口を保護する薬剤塗布を行うなど、後生枝発生の試験地調査も行っています。



プロット  
(列状間伐区)



プロット (対照区)

長野県西部地震災害復旧地において、外部調査機関による自然再生対策調査も実施されてきました。

植栽後15年を経過した平成11年度に、国土保全機能の充実をはじめ保健休養機能等の充実を図るための森林造成のあり方を検討するため、総合的な林分に関する調査を実施しました。

災害復旧事業等により肥料木として植栽されたヤシヤブシ、ヤマハンノキ等が生長し、当初の目的であった森林化による流出土砂の抑制は、ほぼ達成されてきており、長期的に安定した森林に回復させるためには、ヒノキ、サワラ、ミズナラ等の地域の由来樹種が定着した森林への誘導・再生を図っていく必要があることから、5年後の平成16年度には同地域において林分構造、樹種組成、土壌等の調査を実施しました。

今年度は前回調査から9年を経過したことから、経年変化を把握するとともに、今後の維持管理のあり方について検討を行う調査を実施しました。

今後は、これらの調査結果を基に施業方法等について検討し、立地環境に適応し安定的に持続する森林に誘導する必要があります。



ヤマハンノキ (上層木) とヒノキ (下層木)